

児童文学のことば、児童文学というコミュニケーション

宮川健郎

ことばのへだたりを越えて、大人と子どもがどのようにコミュニケーションできるか、千葉省三などの日本の近代童話や、後藤竜二、那須正幹などの現代児童文学の作品を素材に考えていきます。

1、日本児童文学のことばのあり方の歴史

- ・ 詩的・象徴的なことばで心象風景(心の中の景色)を描く「近代童話」から、散文的・説明的なことばで子どもをめぐる状況(社会といってもよい)を描く「現代児童文学」へ。
- ・ 〈近代のことばは対象を指示し限定し、あらゆる存在のなかからそれを区別し、取り出そうとする。同時に抽象化され記号化されている。これにくらべて原始的なことばは具体的であり、ものそのものに近く、生命力さえも持っている。未明は分化したことばを使って、その指示・限定とは逆に、ことばの意味をふくらませ、指示物に感情を吹きこんだ。〉(古田足日「さよなら未明」、『現代児童文学論』くろしお出版、1959年所収)
- ・ 松谷みよ子「貝になった子供の話」(『童話教室』1948年8月)と佐藤さとる「名なしの童子」(『豆の木』1953年3月、のち、書き直して、『佐藤さとる全集』8、講談社、1974年所収)のあいだ
- ・ 散文性の獲得とリアリズムの深化、「タブーの崩壊」。児童文学／文学のボーダレス

2、あらためて、児童文学とは何か

- ・ 大人である作家が書き、子どもが読む文学。大人と子どもの、ことばの上の「へだたり」。「へだたり」を越えて、子どもとコミュニケーションしようとするものとしての児童文学。
- ・ 「遠くからおじさんが来た。」という文と、那須正幹『ズッコケ三人組』シリーズ(ポプラ社、1978～2004年)のことば。

3、児童文学というコミュニケーション

- ・ 松谷みよ子『アカネちゃんのなみだの海』(講談社、1992年) 「媒介者」の仮装
- ・ 「媒介者」とは?
子どもの本における「顧客の二重性」(菅忠道「児童文学史の方法について」、『新児童文化』1940年12月) 子どもの本を読む層と買う層

児童文学の作者(発信者)——大人

↓
媒介者 ——親、教師、保育者、児童図書館員、編集者など

↓
読者(受信者)——子ども

- ・後藤竜二『天使で大地はいっぱいだ』(講談社、1967年)

(後藤竜二は、子どもの話しことばで書いている。児童文学は、子どもを読者とする文学だけれど、大人である作者のものの考え方、感じ方は、子どもたちのそれとはちがう。後藤は、子ども読者とのあいだにあるへだたりをこえるために、子どもの話しことばを仮装し、子どもの認識と感受性の方へまわりこもうとする。これは、児童文学にとってもっともラジカルな方法といえるが、『天使で大地はいっぱいだ』は、それを成功させた。) (宮川健郎「日本児童文学のきのうときょう」、『日本児童文学』1984年2月)

後藤竜二『故郷』(偕成社、1979年)の文体の変化

- ・千葉省三「虎ちやんの日記」(『童話』1925年9~10月) 「子どもの話しことばの仮装」の先駆け
- ・「非対称的コミュニケーション」としての児童文学。「子どもの話しことばの仮装」は「子ども読者」の仮装、「子ども読者」への誘惑。濱野京子『その角を曲れば』(講談社、2007年)や草野たき『反撃』(ポプラ社、2009年)までつづく現代児童文学の方法。

4、「仮装」という概念をめぐる

- ・〈「仮装」ということばには本体をかくすような響きもあるので、『天使で大地はいっぱいだ』の場合、そのことばが適切かどうかということもあって、このことばは評論的にはもっと深めなきゃなりません、……〉(座談会「新人たち・80年代の児童文学」、『日本児童文学』1984年10月での古田足日の発言)
- ・村中李衣『小さいベッド』(偕成社、1984年) 「本体をかくす」作者
- ・三木卓『元気のさかだち』(筑摩書房、1986年) 茂と作者、過去と現在の「わたし」の共棲。「作者」の仮装と「語り手」の発見。

5、日本児童文学のことばのあり方の歴史について、ふたたび

- ・「声」の時代、「声」のわかれ

資料

- ① 小川未明「赤い蠟燭と人魚」(宮川健郎編『名作童話 小川未明 30選』春陽堂書店、2009年より)

- ② 松谷みよ子「貝になった子供の話」(大藤幹夫編『展望日本の児童文学』双文社出版、1978年より)
- ③ 佐藤さとる「名なしの童子」(『佐藤さとる全集』8より)
- ④ 那須正幹『ぼくらはズッコケ探偵団』(ポプラ社、1979年)
- ⑤ 松谷みよ子『アカネちゃんのなみだの海』
- ⑥ 後藤竜二『天使で大地はいっぱいだ』
- ⑦ 千葉省三「虎ちゃんの日記」
- ⑧ 村中李衣「デブの四、五日——菜々子の場合」(『小さいベッド』)
- ⑨ 三木卓「かんじい」(『元気のさかだち』)